

西尾市地域公共交通協議会

平成25年 4月17日設置

フィーダー系統 平成26年 6月30日確保維持計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

『第7次西尾市総合計画(H25年度～H34年度)』

【将来都市像】

「自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち 西尾」

【公共交通に関する目標】

「利便性の高い公共交通ネットワークの形成」

①めざすまちの状態

- 誰でも自由に移動できる鉄道やバスなどの公共交通機関が整備され、活発な人的交流や経済活動を促し、地域の活性化を図ります。
- 地域の各公共交通機関がそれぞれの特徴を生かして連携することで、効率的な運行が行われ安定した路線が確保されます。
- 高齢者や障害者など交通弱者の外出の機会を保障し、社会参加を促進します。
- 佐久島渡船は、生活航路・観光航路の両面から利便性の向上を図ります。

②めざす市民の暮らし

- 長距離の移動に必要な鉄道などが維持・存続され、安心して通勤・通学でき、地域での定住を促進します。
- 高齢者などの通院や買い物などが便利になり、安心して自立した生活を送ることができます。
- 必要に応じて公共交通とマイカーなどを使い分け、環境と健康に配慮したライフスタイルに取り組みます。

『西尾市地域公共交通計画(H26年度～H30年度)』(連携計画)

【地域公共交通体系の将来像】

「日常生活に必要な公共交通が効果的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち」

【基本方針】

- ①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします
- ②市内に人の流れをつくり出します
- ③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります
- ④計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します

□ 西尾市公共交通ネットワーク再構築の方向



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■各公共交通機関に対する取り組み

鉄道	幹線	名鉄西尾・蒲郡線	<ul style="list-style-type: none"> ○大幅な赤字となっている西尾駅～蒲郡駅間の運行に対し、県市から補助を行い路線を維持 ○県、西尾・蒲郡両市からなる対策協議会において路線存続に向けた協議 ○団体・親子での利用者に対し運賃を補助 ○西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団を中心とした各種団体による利用促進活動に対する支援
		ふれんどバス [碧南駅～吉良高校] (名鉄バス東部)	<ul style="list-style-type: none"> ○西尾・碧南両市より赤字欠損額の補助を行い、名鉄三河線廃止代替バスを運行 ○西尾・碧南両市の住民等からなる運行協議会を開催し、運行に関する事項や利用促進策について協議
バス	準幹線	路線バス [岡崎西尾線、一色線、平坂中畑線、寺津線] (名鉄東部交通)	<ul style="list-style-type: none"> ○路線バスの運行に対し、赤字欠損額の補助を行い路線を維持 ○通学者に対し安価なスクールバス券を発行し、通常運賃との差額を補助
		六万石くるりんバス [市街地線、西廻り線、東廻り線] (東伸運輸)	<ul style="list-style-type: none"> ○市内を循環するコミュニティバスを運行 ○路線間の乗継券や沿線協賛店舗での買い物客への帰りの乗車券の発行、パンフレットの配布等による利用の促進
デマンドタクシー	支線	いこまいかー [市内全域] (名鉄東部交通)	<ul style="list-style-type: none"> ○予約により自宅と最寄りの駅またはバス停間を送迎するデマンド型乗合タクシーを運行 ○パンフレットの配布による制度の周知 ○六万石くるりんバスとの乗継券の発行や、複数乗車に対するポイントカードの発行により利用を促進
船		佐久島渡船 [一色渡船場～西港・東港] (市営)	<ul style="list-style-type: none"> ○島民の生活航路、観光航路として渡船を運航

■西尾市地域公共交通活性化協議会の開催状況

	開催日	主な協議内容
H26・9	第1回 H25.4.17	○西尾市地域公共交通活性化協議会の設立
	～第7回 H26.3.24	○アンケート調査や住民との意見交換会、パブリックコメントを経て、H26年3月に「西尾市地域公共交通計画」を策定
	第1回 H26.7.3	<ul style="list-style-type: none"> ○H27年度生活交通ネットワーク計画(フィーダー系統)について ○地区公共交通協議会の進行状況について
H26・9	第2回 H26.11.20	<ul style="list-style-type: none"> ○H26年度地域公共交通確保維持改善事業 自己評価について ○地区公共交通協議会の進行状況について
	第3回 H27.3.23	<ul style="list-style-type: none"> ○地区公共交通協議会の進行状況について ○バス路線見直しの進行状況について ○一色地区バスセンター構想について
H27・10	第1回 H27.6.18	<ul style="list-style-type: none"> ○地域公共交通網形成計画の策定について ○H28年度生活交通確保維持改善計画について ○地区公共交通協議会の進行状況について

②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■西尾市地域公共交通計画(地域公共交通総合連携計画)に基づく取り組み

◎前年度までに実施した事業

- 〈 H25年4月〉「西尾市地域公共交通活性化協議会」の設立
- 〈～H26年3月〉「西尾市地域公共交通計画(地域公共交通総合連携計画)の策定
- 〈 H26年5月〉 重点事業である「地区公共交通協議会」の設立を図るため、市内全町内会を対象に地区別に6回の説明会を開催

◎当該年度に実施した事業

基本方針	事業	事業の概要	当該年度の取り組み
①	いこまいかーのサービス設定の見直し	○現行では自宅から最寄りの駅またはバス停に限られている目的地について、地区公共交通協議会での協議を踏まえて見直しを検討する。	○吉良地区の協議会において、いこまいかーの目的地拡大について検討。 H28年3月末までに地区の案を決定するため引き続き協議を行う。
②	鉄道駅アクセス環境等の整備	○鉄道への乗換可能な駐車場、駐輪場の整備、バリアフリーの促進等により、鉄道を利用しやすい環境を整備する。	○福地駅市営駐車場及び市内8駅における駐輪場の管理。 ○高校生の利用が多い桜町前駅の駐輪場において、屋根増設工事に着手。
	バスセンターの整備	○一色地域等において、地域生活拠点あるいは乗継拠点となる交通結節点を整備し、併せてバス路線の再編を行う。	○一色地区にて現在運行している路線バス、ふれんどバスの乗継拠点となる交通結節点の候補地を3ヶ所に選定した。 ○今後、公共施設再配置事業等との調整を行いながら、検討を進める。
	バス交通の再編	○幹線である路線バス・ふれんどバスは、利用状況を踏まえた運行サービスの見直しを行い、路線の維持を図る。 ○六万石くるりんバスについては、路線バスとの競合改善の観点から、運行経路等を見直す。 ○一色・吉良・幡豆地区の住民の生活行動にあった公共交通サービスを確保するため、地区公共交通協議会での協議を踏まえて新たな地域内公共交通の運行を目指す。	○市西部地域における六万石くるりんバスと路線バスの重複区間解消に向けて、事業者との協議を開始した。 ○一色地区の協議会において、交通不便地域の解消や日常生活における移動手段確保を目的としたバス路線新設の検討を行った。 これまでに月一回、計8回の協議会を開催し、運行計画案の作成を進めており、次回協議会(H28年1月)において地区案の最終決定を行う。
③	地区公共交通協議会の設立・運営	○住民主体により地区ごとの公共交通協議会を設立し、地域内の公共交通ネットワークや運行方法等について検討を行い、市との協議により実行する体制を作る。 ○一色・吉良・幡豆地区では、新たな公共交通の運行やいこまいかーの活用について検討し、西尾地区では、路線バスとの調整を図り六万石くるりんバスの運行ルート見直しについて検討する。	○これまでに吉良地区・一色地区・東部地区の3地区で協議会の設立があり、各地域内の公共交通見直し案についての協議を行った。 ○一色地区・東部地区の協議会では六万石くるりんバス、吉良地区の協議会ではいこまいかーについての検討がなされ、各地区ともH28年3月末までに地区案を決定することを目指し協議を重ねている。 ○吉良地区各家庭へのいこまいかーのパンフレット配布や、一色地区での六万石くるりんバス現行路線への試乗会開催等、地区主体の取り組みが行われた。
	まちづくり・観光振興と一体となった施策の実施	○鉄道やバスを活用した施策・イベント等を企画し実施する。 ○イベント等の機会を捉えて、公共交通機関の利用を働きかける。 ○観光振興事業とのタイアップや観光客への公共交通情報の提供等により、観光客の利用促進を図る。	○各種団体との協働により、鉄道沿線ウォーキング等のイベントを多数開催。 ○愛知こどもの国でのイベント開催時に、鉄道での来場者に対しグッズを配布。 ○観光キャンペーンの一環として、市民ボランティア観光ガイドが六万石くるりんバスへ乗車し観光案内を行う企画や、観光マップへのバス情報の記載を実施。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

■西尾市地域公共交通計画(地域公共交通総合連携計画)の目標達成状況

基本方針	指標	計画策定時	目標(H30年度)	実績	
①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします	日常生活で移動に不便を感じている市民の割合	39.9%	35%	— (H30年度に調査を行う)	
②市内に人の流れをつくり出します	公共交通機関の年間利用者数の維持・増加	名鉄西尾・蒲郡線	3,120千人 (H24)	3,137千人 (総合計画の目標値)	3173千人 (H26)
		六万石くるりんバス	93千人 (H24)	95千人 (総合計画の目標値)	113千人 (H26)
		いこまいかー	600人 (H25)	970人 (毎年10%の増加)	1044人 (H27)
		路線バス	265千人 (H24)	265千人 (維持)	270千人 (H26)
		ふれんどバス	238千人 (H24)	238千人 (維持)	269千人 (H26)
		渡船	184千人 (H24)	193千人 (5%の増加)	190千人 (H26)
③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります	地区公共交通協議会の設立数	—	1地区	3地区	
④計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します	地区公共交通協議会との連携でPDCAを実施	—	実施済	未実施	

【基本方針②】

○名鉄西尾・蒲郡線については、消費税増税に伴う定期券先買いの影響によりH25年度の利用者が大きく増加し、H26年度は利用者が減少したものの、長期的に見ると定期券利用者が徐々に増加しており、総利用者数も増加傾向にある。

○いこまいかーについては、地区の協議会との連携によりパンフレットを配布した吉良地区において利用者数が伸びている。

○路線バス、ふれんどバス、渡船についても、順調に利用者数が維持・増加しており、概ね目標を達成している。

【基本方針③】

○吉良地区、一色地区、東部地区の3地区において協議会が設立され、地域にとって本当に必要な公共交通とは何かを検討するとともに、バス試乗会の開催やパンフレットの配布など、地区が主体となった取り組みを行っている。

【基本方針④】

○いずれの地区協議会においても、地区内公共交通の見直しについての協議を行っている最中であるため、進捗状況の評価には至っていないが、一色地区においては地区案の最終決定後も協議会を存続し、評価や利用促進の活動を検討していくこととしている。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

■生活交通確保維持改善計画の目標達成状況

【補助対象事業の位置づけ】

○西尾市では、市外や市内地域間の移動を担う「幹線」交通として、「名鉄西尾・蒲郡線」、「路線バス(岡崎西尾線、一色線)」、「ふれんどバス」、「佐久島渡船」が運行しており、「路線バス(平坂中畑線、寺津線)」、「六万石くるりんバス」がこれらの公共交通を補完する「準幹線」交通として、「幹線」交通への接続や地域内の移動を担っている。

○しかし、平成23年4月の旧幡豆郡3町との合併によって広大となった市域には、鉄道やバスの運行していない「交通空白地域」が依然として多く存在していたため、平成24年10月に、自宅と最寄りの駅またはバス停間の輸送を行うデマンド型乗合タクシー「いこまいかー」の運行を市内全域で開始し、「幹線」「準幹線」交通への接続により最低限の移動手段を確保し、「交通空白地域」の解消を図っている。

【補助対象事業の目標達成状況】

○平成27年度の計画において、「いこまいかー」全体での年間利用者数1,014人を目標数値としたところ、実績数値は1,044人となり、目標を達成した。
○前年度の利用状況と比較すると、特定の利用者による繰り返し利用の割合が減り、より多くの方の利用が見られた。

○特に、地区の協議会と連携しパンフレットの配布を行った吉良地区において、前年比約30%増(459人→609人)と利用者が大きく増加した。

○地区別の利用状況では、鉄道運行のみでバス運行のない吉良地区、幡豆地区での利用や、西尾地区の市境の地域での利用が多くなっている。

○また、佐久島の住民については、一色渡船場を自宅とみなして最寄りのバス停との間で送迎を行っており、島民の足として利用されている。

エリア名	H26.10-H27.9	エリア名	H26.10-H27.9
西尾	1	米津	54
花ノ木	1	一色西部	0
鶴城	0	一色南部	1
八ツ面	0	一色中部	0
西野町	0	一色東部	12
中畑	0	佐久島	47
平坂	52	吉田	1
矢田	0	白浜	350
寺津	0	荻原	204
福地南部	2	横須賀	23
福地北部	67	津平	31
三和	134	東幡豆	62
室場	0	幡豆	2
		計	1044

□H27年度エリア別年間利用者数

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

【生活交通確保維持改善計画に基づく取り組み】

◎いこまいかーの課題とその対応

〈課題〉○いこまいかー全体としては目標を達成したものの、利用される地区の偏りや一人利用が依然として多く見られる。

〈対応〉○地区の協議会と連携し、パンフレットの配布や乗り方教室の実施、地区ごとにいこまいかーを利用したおでかけ方法を案内する等により周知を図るとともに、引き続き目的地拡大の検討を行い、利便性の向上を図る。

【西尾市地域公共交通計画(地域公共交通総合連携計画)に基づく取り組み】

◎各公共交通機関間の連携

〈課題〉○各公共交通機関の利用者数は概ね維持・増加しているものの、路線個々の取り組みが多く公共交通体系全体として連携した取り組みができていない。

〈対応〉○バス路線間の乗継拠点となる交通結節点の整備、路線バスと渡船の接続強化等により公共交通体系全体の利便性を向上するとともに、個々のバス路線ではなく市内公共交通機関全体の路線図や時刻表を作成による情報提供を図る。

◎計画に基づく事業の進捗状況

〈課題〉○計画に基づく事業の実施について、計画策定時のスケジュールから遅れている。

〈対応〉○重点事業である地区の協議会での合意を待つ事業が多いため、概ね地区案の結論がまとまった地区をモデルとして地区協議会の設立・運営を推進し、事業の実施を進める。

- 西尾市地域公共交通活性化協議会での事業の実施計画作成や評価・進行管理が確実に行われていないため、PDCAの実施や活性化協議会の下に専門部会を設置することで機動的に検討を行い、各事業を着実に実施していく。
- 法改正に伴い地域公共交通網形成計画への移行を行うため、これまでの計画の振り返り評価を再度行い、これらの反省点を反映した計画を策定する。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

【みんなで地域公共交通を守り育てる体制づくり】

- 地区協議会の設立により、地域にとって本当に必要な公共交通とは何かを地域の住民自らが考える機会が設けられ、六万石くるりんバス試乗会やいこまいかーのパフレット配布等、地区主体の取り組み実施につながった。
- 観光との連携施策として市民ボランティアガイドによる六万石くるりんバス車内での観光案内実施等、市民主体による公共交通の利用促進活動が数多く展開された。



くるりんバス観光案内



一色地区での協議



西尾高校による沿線ウォーク



沿線ウォーキングの定期開催



東幡豆駅前売店